

2025年度 DTF, I (1年生セミナー)
6月11日 (水)

筑波大学の学生アスリートとしての心構えについて

—スポーツ・インテグリティを中心に—

体育スポーツ局・スポーツエデュケーション部門
インテグリティチーム



筑波大学
University of Tsukuba

そもそも 「インテグリティ」とは？

integrity

ロングマン現代英英辞典より

in • teg • ri • ty /ɪnˈteɡrəti/ ●○○ **AWL** **noun** [uncountable]



1 the quality of being honest and strong about what you believe to be right

personal/professional/political etc integrity

🔊 a man of great moral integrity

2 *formal* the state of being united as one complete thing

🔊 the **territorial integrity** of the country

⇒ 自分が「最善だ」と思えることに、誠実に、強い信念をもって集中できる状態のこと



スポーツ界の 「インテグリティ」を 脅かす要因



特に2000年台以降、スポーツ界は上記のような数々の問題を抱え、「スポーツマンシップ」に代表されるそのクリーンなイメージ（社会的価値）を、ときに自ら壊してきた

その要因は
「大学スポーツ」にも
存在する

UNIVAS（2021）『大学スポーツ処分事例集』より抜粋

事例①

未成年の学生16名が、新入生歓迎会において、飲酒し、成人の学生1名もアルコール中毒で救急搬送され、入院した。

事例②

学生8名が、賭けボウリングを行い、2年生4名が、1年生4名から、現金27万円を数回にわたって受け取っていた。

事例③

運動部が、対戦相手のグラウンド付近のマンションから、対戦相手のサインプレーを把握するためにビデオカメラを用いて練習内容を盗撮した。

なぜ 「インテグリティ」を 守るのか

その理由が、外発的（外圧的）なものによる議論のレベルにとどまっていないか？

例：

- ・不祥事がバレると謹慎させられるから？
- ・SNS等で社会にさらされて炎上してしまうから？
- ・組織的対応をとらないと学連からペナルティがあるから？

インシデントが発生するたびに、その再発を防止するための制度化（ルール整備）は進められてきたが…

私たちが「インテグリティ」を守る理由は、本質的にはそのような外圧的なものではなく、もっと内発的に、筑波大学のアスリートとしての自己実現をさらに高いレベルで達成するため、という目的論に基づくべきではないか。自己と仲間の成長のために「最善だ」と思えることに誠実に、強い信念をもって向き合っているかを問い続ける、という意味である。

筑波大学のアスリートとしての 「自己実現」を考える

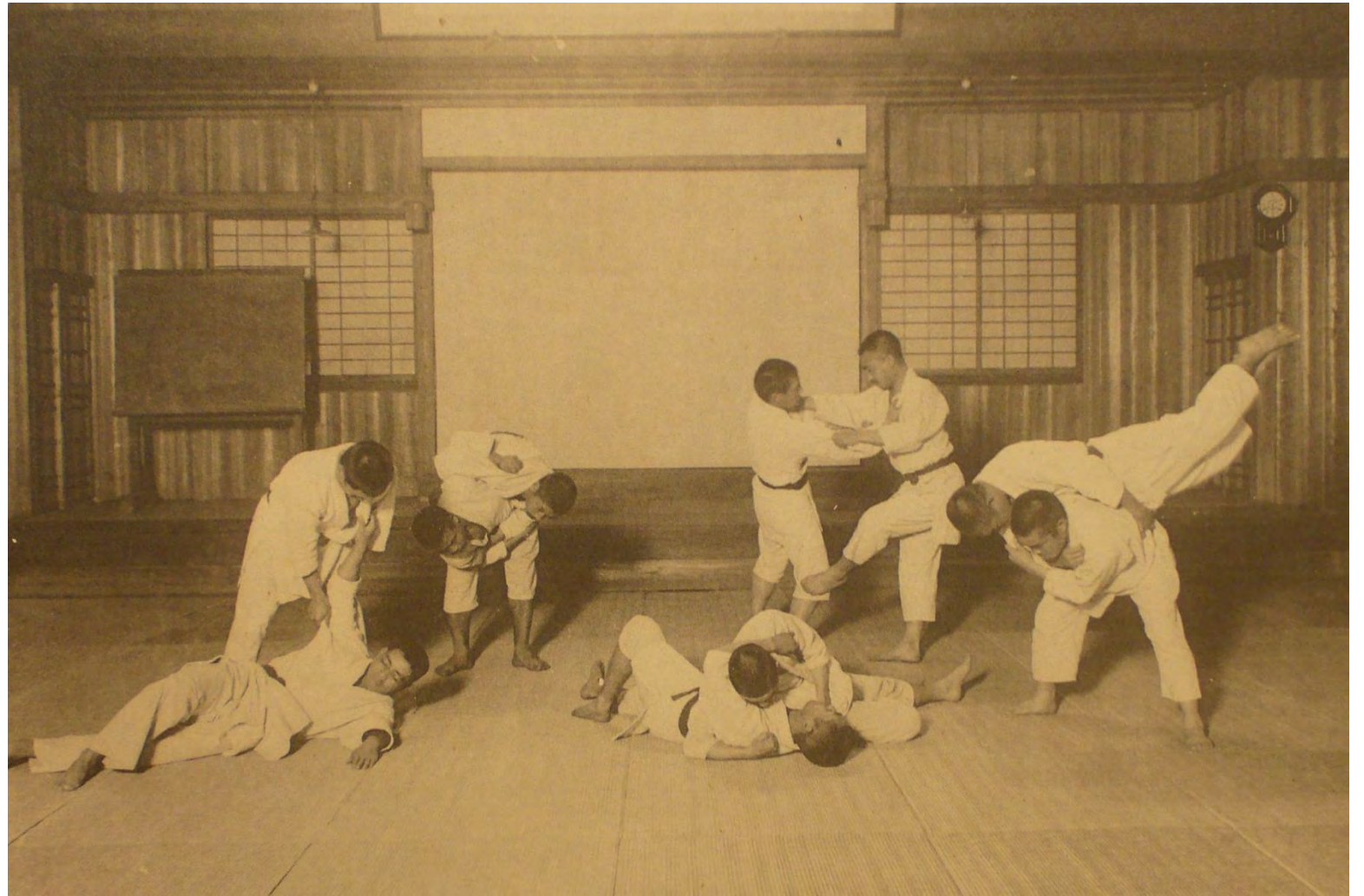
嘉納治五郎による
「運動会」設立（1896年）から



本学の前身である高等師範学校・東京高師の校長を3期23年半にわたり務め、教育改革を行いつつ、日本の学校教育の充実、体育・スポーツの発展、そしてオリンピック・ムーブメントの推進に尽力

筑波大学のアスリートとしての 「自己実現」を考える

嘉納治五郎による
「運動会」設立（1896年）から



嘉納治五郎による運動の奨励：運動会発足時（1896年）には、
柔道部、撃剣銃槍部、弓技部、器械体操部、相撲部、ローンテニス部、
フットボール部、ベースボール部が設立された

筑波大学のアスリートとしての 「自己実現」を考える

嘉納治五郎による
「運動会」設立（1896年）から



徒歩部（陸上競技部）：1902年創設
金栗四三が1912年のストックホルムオリンピックに出場
箱根駅伝の創設、第一回優勝校となる

筑波大学のアスリートとしての 「自己実現」を考える

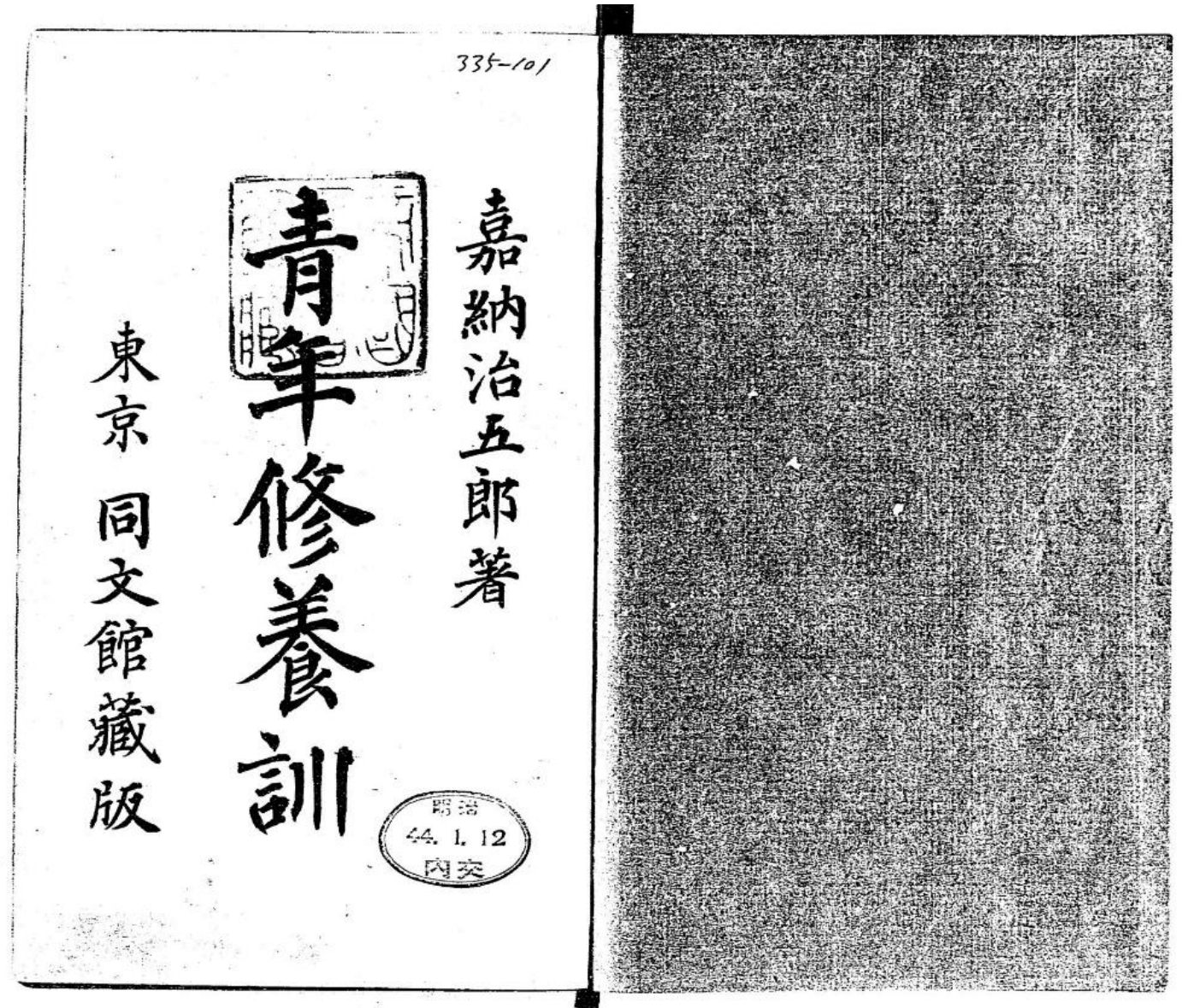
嘉納治五郎による
「運動会」設立（1896年）から

運動遊戯は各人の性格を暴露して虚偽修飾に違なければ、善の与せられ、悪の排せらるる、ここに人品淘汰の法行われ、融然として一個の団結を形成するを得ん。事ここに至れば**学風の根底**は成れりというべし。**運動の盛んなるところに元気あり。元気の充実するところに進取の活動あり。学風もって興り、校運もって進む。**我が校の運動界に徴して大いに祝するゆえんなり。

嘉納治五郎（1903）「校友会に望む」『校友会誌』第2号より

筑波大学のアスリートとしての
「自己実現」を考える

嘉納治五郎による
「運動会」設立（1896年）から



嘉納治五郎（1910）青年修養訓，同文館.

筑波大学のアスリートとしての 「自己実現」を考える

嘉納治五郎による
「運動会」設立（1896年）から

第一に、**筋骨を発達させ身体を強健にする**という点から、その種類方法を選び、些少の余裕の時間も運動に費やすように心がけること。

第二には運動遊戯を、単に身体のためばかりでなく、**自己に対して人に対しての道德上、品位上の修養の資に供す**こと。

第三にはこのような運動の習慣を修学時代を終わると同時に廃止しないで永くこれを継続し、心身ともに若々しくあること。

嘉納治五郎（1910）青年修養訓，同文館．より

筑波大学の学生アスリートは、我が国の体育・スポーツを切り開いてきたその歴史的経緯を背景として、より内発的な意味でのスポーツ・インテグリティの維持・向上の在り方を社会に示すことが期待されている。長くて短い4年間の限られた時間をどのように使うか、嘉納の教えも参考にしつつ、自分と仲間の自己実現に何が「最善」なのかを主体的に考えられる存在になってほしい。

体育スポーツ局・スポーツエデュケーション部門
インテグリティチーム



筑波大学
University of Tsukuba